

校長室から

(H30年度)

ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 25

平成30年8月31日(金)発行

防災の意識を持ち続けて

明日、9月1日は「防災の日」です。地震や台風、津波などの災害に対する認識を深めて日常の備えについて確認する日です。大正11年9月1日に起きた関東大震災がきっかけでした。では、いくつか確認してみましょう。

- ・家の危険物(家具、テレビ)が倒れないように転倒防止の金具を取り付けたりしていますか？
- ・食料、水、医薬品、懐中電灯、ラジオなどの避難グッズを用意していますか？
- ・広域避難場所はどこでしょうか。災害時に家族間の連絡方法はなっていますか？



ぜひ、家庭で適切な避難行動について話し合しましょう。

平成23(2011)年3月11日(金)午後2時46分、千年に一度と言われるマグニチュード9の巨大地震(東日本大震災)が発生しました。あれから7年6ヵ月になろうとしています。この震災で大きな被害を受けた岩手県釜石市に、ギネス世界記録に認定されている世界一の防波堤があります。防波堤とは、津波から街を守るコンクリートの大きな壁のことです。しかし、これがあつたために津波が来ても大丈夫だろうと油断してしまったことや防波堤も壊れてしまったために、約1000人もの人が亡くなったり、行方不明になったりしました。

ところが、釜石では約3000人いる小中学生が素早い避難を行い、大津波から命を守ることができました。これを「釜石の奇跡」といいます。その中で、釜石小学校では、地震が発生したときは放課後だったため、ほとんどの子どもが下校していました。学校にいないので先生の指示も受けられません。家に一人にいる子どももいました。しかし、子どもたちは大人顔負けの的確な判断で、全校184人全員が一人も命を落とすことなく無事に避難したのです。まぜ、子どもたちは助かったのでしょうか。

- それは、
1. 災害は予想した以上にひどくて大きくなることもある。
 2. そのときにできることに最善を尽くす。
 3. 周りの人を巻き込みながら、自分から進んで逃げる。

という3つの約束をしっかり守ったからです。

地震が起きたとき、必ず学校にいるとは限りませんし、もしかすると、家の中や道路に一人でいるかもしれません。そのときみなさんはどのように避難しますか。建物の中や外にいるときは、物が落ちたり倒れたりしてもケガをしない安全な場所に避難しなければなりません。海辺にいるときは、津波に備えてできるだけ高い場所に避難しなければなりません。また、家の人と離ればなれになったことを考えて、待ち合わせ場所や連絡方法を決めておかなければなりません。

地震以外に、火事や台風による大雨と強風、それに雷や火山の噴火もあります。「災害は、忘れたころにやってくる」とよく言われます。人々が災害の恐ろしさを忘れたところに、また起こるというものです。学校や家族で決めている約束通りに避難することは、自分の命を自分で守ることにもつながります。いつどんな災害が起こっても、あわてない準備と心構えを忘れないでください。

学校での避難訓練…マンネリになっていませんか。「いつもの訓練だから」とか「いつもどおり」「このぐらいやっておけば…」になっていませんか。「まさか、こんなはずでは」ということがないように、日頃から防災意識を高く持ち、備えを万全にしていく、そういう心構えをもちましょう。

がんばった、連合水泳大会

一昨日、茨木市小学校連合水泳大会が市内8カ所の小学校で開催されました。本校の6年生は、中条小学校会場での大会に出場しました。参加校は、中条小学校、天王小学校、東奈良小学校の3校でした。

天気はカンカン照りで、プールサイドはとても暑かったのですが、大会も白熱してとても盛り上がりました。

私は、最初から最後まで全てのレースを観戦しましたが、3小学校の出場した6年生のみなさんが、一生懸命泳いでいるのがよく伝わってきました。

また、まとまって応援する姿も、多くの場面で見ることができました。本当に嬉しくなる光景でした。6年生のみなさん、よく頑張りましたね。お疲れ様でした。この調子で9/29(土)の運動会では、最上級生としてのお手本を示して下級生をリードしてください。その後の10/17(水)、本校で開催される連合運動会もしっかりやりきりましょう。期待していますよ。

